

# うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 109



自転車と堺の歴史がわかる  
博物館にリニューアル

1992年から大仙公園内にあった「自転車博物館サイクルセンター」が、堺東駅近くに移転、2022年3月「シマノ自転車博物館」としてリニューアルオープンしました。公益財団法人シマノ・サイクル開発センターが運営しています。エントランスホールでは、個性豊かな自転車や、堺と自転車の関わりを紹介する展示、ヒストリーシアターでは自転車の歴史をたどる「自転車の誕生とあゆみ」が上映されます。「Aゾーン 自転車のはじまり」



日本の「オーディナリー」自転車



では、自転車の歴史を彩る展示があります。パノラマシアターでは、自転車の誕生のドラマを紹介する「発明家たちの夢」が上映されます。

「Bゾーン 自転車のひろがり」では、多様な自転車がテーマごとに展示され、映像や体験展示で自転車の科学や技術を探求できます。「Cゾーン 自転車とこれから」では、サステイナブル社会に向けて豊かなくらしに貢献する自転車が展示されています。他にも部品の歴史展示、自転車に関する書籍等を集積する「マルチメディアライブラリー」もあります。開館時間：10時～16時30分（入館は16時まで）／定休日：月曜日、祝日の翌日（土・日の場合は開館）、年末年始／南海高野線「堺東」駅下車徒歩5分／TEL：072（221）3196

## 映像や体験で技術もわかる

## 161年スファエーイが

## 逆境でも生きる希望を託して

ラーゲリとはロシア語で、ソビエト連邦における強制収容所をさしています。第二次世界大戦後、シベリアに抑留され、強制収容所で亡くなった日本人元兵士。家族にあててしたためた遺書がロシア当局の検閲で没収されても、彼を慕う仲間たちの暗記によって日本に帰国後、残された遺族に届けられた実話を描いています。

1945年、極寒のシベリアではソ連軍の捕虜になった多くの元日本兵がいました。わずかな食糧、零下40度という過酷な状況下で重労働を強いられ、たもとで、そのひとり山本幡男は「生きる希望を決して捨ててはいけません。日本に帰国できる日がきつとやってくる」と励まし続けていました。ロシア語も通じる幡男は、収容所内でソ連将校との通訳もこなし、劣悪な待遇改善の交渉役にもなり、一方で日本兵士の

生きる希望を決して捨ててはいけません。日本に帰国できる日がきつとやってくる」と励まし続けていました。ロシア語も通じる幡男は、収容所内でソ連将校との通訳もこなし、劣悪な待遇改善の交渉役にもなり、一方で日本兵士の

# ラーゲリより愛を込めて

FROM SIBERIA WITH LOVE

©2022映画「ラーゲリより愛を込めて」製作委員会 ©1989 清水香子



# Culture Navi かるちターナビ

## 作りませんか



チンジャオロースー  
岸和田市職労 学校支部 給食分会  
協力：現業評議会・給食部会



## 材料（4人分）

豚肉80g、にんにく0.4g、土しょうが4g、油少々、玉ねぎ100g、人参40g、タケノコ水煮40g、ピーマン40g、調味料A（濃口しょうゆ4g、料理酒4g）、調味料B（砂糖2g、料理酒4g、濃口しょうゆ6g、塩0.8g、オイスターソース6g）、片栗粉4g

## 作り方

- ①豚肉はせん切りにして調味料Aで下味をつける。
- ②にんにくと土しょうがは、みじん切りにする。
- ③玉ねぎはくし型切りに、人参・タケノコ水煮・ピーマンはせん切りにする。
- ④油でにんにくと土しょうがを炒め、豚肉を十分炒める。
- ⑤材料（野菜）を加えて炒める。
- ⑥調味料Bで調味する。
- ⑦片栗粉を少量の水で溶き材料にまわし入れ、炒めてとろみをつける。

## 心に響くこのひとこと

結果はどうあれ  
自分たちが持っている力を  
ふりしぼったかどうか  
森保 一  
(サッカー日本代表監督 1968年～)

ベスト8進出という「新しい景色」をめざした森保監督が率いる日本代表は、初戦逆転で強豪ドイツを破り全世界を驚かせましたが、コスタリカにまさかの敗戦。グループステージ最終戦で再び逆転で優勝候補スペインに勝利し、日本中を熱狂させました。残念ながら決勝トーナメントでクロアチアに敗れ、目標には届かなかったものの、ひたむきなプレーは感動を呼びました。監督の言葉どおり、結果はどうあれ選手たちが持っている力をふりしぼったからに他なりません。私たちの要求も容易には実現しませんが、持っている力をふりしぼったかどうか重要です。

## 今月の記念日

1月2日  
月ロケットの日

1959年のこの日、ソ連が世界初の月ロケット・ルーニク（ルナ）1号の打ち上げに成功しました。月面を観測した後、太陽の周囲を回る軌道に入り、地球と火星の間を公転する最初の「人工惑星」となりました。ソ連は1957年のスプートニク1号以来、宇宙開発を積極的に進めていました。1958年以降は月に探査機を着陸・衝突させることを目的とした「ルナ計画」を行っていたのです。1959年9月12日に打ち上げられたルナ2号は月に命中し、世界で初めて月面に到達した人工物となり、同年10月4日に打ち上げられたルナ3号は世界で初めて月の裏側の撮影に成功、ルナ9号は1966年2月3日に世界で初めて月面軟着陸に成功しました。